

平成 30 年 12 月 20 日  
こども政策課

## 「災害時における相互支援に関する協定」に基づく訓練の実施について

### 1 「災害時における相互支援に関する協定」について

#### (1) 協定の概要

- |        |   |
|--------|---|
| ○ 協定主体 | 県及び幼稚園連合会、保育連盟連合会及び認定こども園協会(以下、「3団体」という。) |
| ○ 支援内容 | 可能な範囲での職員の派遣、こどもの受入、物資の提供                 |
| ○ 事務手続 | 県及び3団体事務局の関与                              |
| ○ 費用負担 | 無償  |
| ○ 平常時  | 連絡体制の確立及び訓練の実施                            |

#### (2) 締結に至る経緯

##### ①平成 29 年 2 月 14 日（第 12 回子ども・子育て支援会議）

- ・ 保育所等の防災対応について意見交換を行った際、会長より、相互応援の仕組みづくりについて言及があり、関係 3 団体との協議を開始。

##### ②平成 29 年 9 月 8 日

- ・ 協定締結

### 2 訓練の概要

#### (1) 実施日時

平成 30 年 10 月 25 日 午前 10 時～12 時

#### (2) 災害の想定

10 月 24 日（訓練前日）に、小林市周辺を震源とする最大震度 6 強の地震が発生

#### (3) 支援の想定

小林市内にある 3 つの被災園に対し、県北、児湯、県南地区にある 9 園が支援することを想定

#### (4) 訓練の方法

県及び 3 団体事務局を介して、F A X（一部、電話確認）により、被災園と支援園における相互支援のマッチングを実施

### 3 訓練参加者の感想アンケート(調査結果)

#### (1) 回答者情報

15 者（内訳は、事務局 3 団体 被災園 3 園、支援可能園 9 園）

#### (2) アンケート結果

##### ①参加してみたの感想

→ 参加者（15 者）全てが、「今回の訓練に参加して良かった」と回答

(主なコメント:参加して良かった理由など)

- ・支援要請など実際の流れが把握できた。
- ・職員の防災意識への再確認につながる。
- ・他園との連携(広域的支援)の必要性をより一層感じた。
- ・どのような物が支援できるか、自園の備品を再確認することができた。
- ・定期的に訓練を実施することで、相互支援の気運が高まると期待。

## ②実施時期や時間

→ ほとんどの参加者が、「実施時期や時間は適当だった」と回答

※1園から、「年度初め(5月頃)に実施すると効果的ではないか」との提案

## ③来年度以降の訓練内容

→ 10者(15者中)が、「今回と同じような電話及びFAXによる伝達訓練を、対象地域や対象園を変えて実施した方が良い」と回答

(主なコメント:今回とは違う内容が良いと回答した園の提案など)

- ・準備万端な状況ではなく、少し緊急性を感じさせる訓練が良い。
- ・FAX以外の伝達方法での訓練が必要(停電を想定)。
- ・事前に支援内容等を決めず、本当に今起こったら、何が支援できるかを考えて行う訓練内容が良い。
- ・訓練日の前日に、実際に起きた災害の情報を流しておくことで臨場感が出るのではないかと。

## ④その他、意見や感想

- ・H30の台風24号では、停電により電話やFAXが使えない状況になり、携帯電話で連絡を取り合った。個人の番号をオープンにできるのか課題。
- ・メールを使った訓練も行ってはどうか。
- ・被災園の支援要望を事前に把握した上で、支援できる内容を登録した方が、実際の災害時にはマッチングがスムーズになるのではないかと。
- ・FAXが届いたかどうか、逐一、確認の電話をした方が良い。
- ・参加園を変えながら、できるだけ多くの園が訓練を経験できると良い。